



ラグジュアリーなベッドルーム。質感のある壁パネルがライトアップされ、存在感ある空間に



家具、調度品はこれまでNさんが骨董店やギャラリー、オークションで少しずつ収集してきたもの。時代も国も違うものの、Nさんの審美眼を通したものだから、不思議と調和。「一つ一つがアートピースです」



生活感を感じさせないよう、冷蔵庫やワインセラーはすべてビルトイン。アイランドキッチンにプライベートシェフを呼んで、おもてなしも計画



間取りは約80㎡の1LDK。緑と夜景の両方を堪能できる北東の角部屋をセレクト。「窓に照明が映り込まないよう、グレアレスダウンライトを焼杉の天井板に埋め込むなど、照明計画にもこだわりました」



玄関ホールには、NYが舞台となる映画『ティファニーで朝食を』を題材にしたアート作品を飾って。渋谷がテーマの作品もあり、空間にテーマ性がある

CASE 2

「緑の絨毯」を満喫する 特等席レジデンス

渋谷区宇田川町／Nさん(50代)

朝夕に表情を変える 東京のセントラルパーク

タワー・マンションの魅力といえば「眺望」。なかでも、Nさんが重視するのは、「緑の借景」。ニューヨークのセントラルパーク前のホテルコンドミニアムを所有し、「東京でも同じような住まいを」と選んだのが、この宇田川町のタワーレジデンス。明治神宮、代々木公園といった、東京屈指の緑のオアシス。が目の前のロケーションだ。「緑って、やはり癒やされますよね。季節はもちろん、同じ一日でも明け方と夕暮れ時では表情が変わります。雨上がりの晴れ間には木々から霧が立ち上がり、とても幻想的。こんなに存在感のある自然を常に目の当たりにできる環境は東京都心では珍しい。圧倒的に希少性が高いと思います」

そうした借景を楽しめるよう、高層階ではなく、あえて中層階を選択。「リビングから空と緑の両方を感じられる階数にしました。高層階だと窓の近くから見下ろすすしなく、下の公園が箱庭のように見えて味気ない。ここなら風に揺れる木々も見えます」この眺望をフルに堪能できるよう、壁を取り払い、フルリノベーション。玄関を開ければすぐ目の前に緑のパノラマが広がる。緑の絨毯を望める窓際にはダイニングテーブルやソファなど家具を集中して配置。訪れる客をもてなす、まるで展望レストランのような特等席をつくり上げた。

渋谷×緑×タワーの資産性 「+αの価値」も魅力

さらにNさんが重視しているのは、渋谷、表参道、青山など、刺激ある街のタワー・マンションであること。「常に流動的な街に惹かれるんです。特に渋谷の変貌はすごいでしょう。その変化から生まれるエネルギーには、大いに刺激を受けますね」また、以前はタワー以外の物件を所有していたこともあるが、今後はタワー物件に絞って購入していくつもりだという。理由は共用部の充実度だ。「まるでホテルのようなエントランスやラウンジをフル活用できるのは、都心タワーならではの魅力でしょう。専有部以外の+αの価値ですね。このマンションも2層吹抜けのラウンジにバーがあり、よく利用しています。渋谷には新しいビジネスを展開する若い経営者の方が多いせいか、ミーティングルームの稼働率も高いようです。こうした環境に身を置くこともやはり刺激的ですね。渋谷×緑×タワーという組み合わせ。資産価値の落ちない物件であることは間違いありません」